

教材：大ごとにはしたくない

■対象：小学校中学年～高学年

■関連する教科等：

- ・ 体育：保健（不安、悩みへの対処）
- ・ 道徳：正直、誠実 / 相互理解、寛容 / よりよい学校生活、集団生活の充実
- ・ 特別活動
- ・ SOS の出し方に関する教育

<教材制作の意図（授業のねらい）>

2017年に改定された自殺総合対策大綱では、「子ども・若者の自殺対策を更に推進する」ことが重点施策と位置づけられており、「つらいときや苦しいときには助けを求めてもよいということを学ぶ教育（SOSの出し方に関する教育）」を推進することが必要だと記されている。また、文部科学省（2018）も、子どもの自殺予防のための取り組みが十分に行われているとは言い難いと指摘した上で、「SOSの出し方に関する教育」を実施するよう学校に求めている。

自殺予防に目的を限定せずとも、つらい状況が訪れた時には「一人で抱え込まず誰かに助けを求めよう」「早めに相談をすることで問題は深刻化しづらくなる」ということを日常の様々な場面で子どもたちに伝えていきたい。人間関係のトラブルは教師や保護者の目が届かないところで起こりがちである。子どもたちがためらわずにSOSを出せるようになることで、大人はいじめ問題に早期対応することが可能になる。

しかしながら、子どもの側からすればSOSを出すのは簡単なことではないかもしれない。本教材では、クラスメイトから悪口を言われる小学生ミナミの葛藤が描かれる。ミナミは教師や親に相談をしようかと思うのだが、相談した後の様子を想像し、ためらってしまう。相談したら、自分の悩みを「大ごと」にされるのではないかということが心配なのである。そこには「相談をしたいのだが、したくない。誰かに知ってほしいが、知ってほしくない」という複雑な思いがある。

大人は「気軽にSOSを出しなよ」とは言うものの、子どもには「大ごと」にされたくないというSOSを出しづらい理由がある。そうした思いは普段は表に出し共有するものではないかもしれない。授業においては、SOSを出しづらいという気持ちがあることを前提とした上で、「どうしたら早めに相談をしようというマインドをもてるだろうか」「どうしたら相談をしやすい雰囲気や状況をクラスでつくっていただけるだろうか」といったことについて皆で議論をしていきたい。

- 厚生労働省（2017）「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」
- 文部科学省（2018）「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議（平成30年度）（第3回）配布資料「自殺予防教育とSOSの出し方に関する教育の整理表」

<話し合いのポイント>

- 主人公の「相談をしたいのだが、したくない。誰かに知ってほしいが、知ってほしくない」という気持ちに共感できるだろうか？
- なぜ、「大ごと」にしてほしくないと思うのだろうか？ なぜ、クラス会議で共有されるのは嫌なのだろうか？ なぜ、親が問題解決のために積極的に行動するのが嫌なのだろうか？

- 「相談しづらい」という思いを乗り越えて、SOS を出せるようになるためにはどうしたらよいだろうか？
- SOS を出しやすい雰囲気をつくるために、クラスや友達同士でできることはないだろうか？

<授業プラン> (45～50 分)

活動内容	補足・留意点等
<p><u>1. マンガに描かれている問題点を共有する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 悩みや不安を抱えたときにどうするか、「大ごとになる」ってどういうことだろうか、等について考える。 • 教材「大ごとにはしたくない」を視聴する。 • 教材の内容や問題点をおさえる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 小グループで、教材を視聴した感想をざっくばらんに話し合う。 ➢ どのような問題が生じているのか（ミナミさんは何にこまっているのか？）を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 話し合う時間を確保するため、導入にあまり時間をかけず早めに教材を視聴する。導入の話せず、すぐに教材視聴に入ってもよい。 • 意見を言いやすい雰囲気をつくるよう心がける。 • 教材で描かれる問題を「○○問題」「○○ゲーム」のように客観的に表現させ、本時ではそれらの解決方法を皆で探っていこうという仕方で展開してもよい。
<p><u>2. 問題点について深く考えるために、登場人物の状況や気持ちを想像する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Q：<u>あなたがミナミさんだったら、このあとどうしますか？ 自分の考えに近いものを次の選択肢から選んで、理由も書いてください。</u> <ul style="list-style-type: none"> ◇ A：担任の先生に相談をする ◇ B：母親に相談をする ◇ C：相談をしない • 個人の考え（選択と理由）をノートに書く。 • 挙手等により、選択肢を選んだ人数（今のクラスの状況）を把握する。 • 小グループで、それぞれの意見について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • クラスの状況に応じて、選択肢を子どもたちに提案させたり、「D：その他」という選択肢を追加したり、選択肢を用いず自由に議論をさせたり、「誰には相談をしたくないか」を考えたりしてもよい。 • 小グループでの話し合いなどを取り入れ、ひとりひとりが「話す・聞く」時間の総量を増やせるよう留意する。
<p><u>3. クラス全体で、問題点について多面的・多角的に考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • クラス全体に対して、個人の意見を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 例)大ごとにはしてほしくないと伝えた上で相談をする、自分は積極的にクラスで話をしてほしい、大ごとにしたくないので我慢する、等 	<ul style="list-style-type: none"> • 「相談をしたいのだが、したくない。誰かに知ってほしいが、知ってほしくない」と考える人もおり、「すぐ相談をすればよい」と単純に結論づけられない話であることをおさえる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表された意見をもとにして、クラスの状況に応じて話し合いを深める。 <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 上記<話し合いのポイント>にある論点を参考にして意見を掘り下げる。 ➤ 自分とは違う選択をした人に対して、聞いてみたいことや伝えたいことはあるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者に対して、選択の背後にある価値観を確認したり、相反する意見についてはどう思うかたずねたりする。 ・ 意見が出づらい場合は、登場人物の心情や願いについて改めて想像させてみる。 ・ 多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為や違法行為自体を積極的に肯定するような意見に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらうよう留意する。
<p><u>4. まとめ：どうしたら相談をしやすいになるだろうか？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大ごとにしたくない」という思いがあることを踏まえた上で、「どうしたら早めに相談をしようというマインドをもてるだろうか」「どうしたら相談をしやすい雰囲気や状況をクラスでつくっていただけるだろうか」といったことについて考えノートに書く。 ・ 記述した内容を共有し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「〇〇問題」「〇〇ゲーム」ということを想定していた場合、問題の解決法やゲームの分岐（チェンジ）の仕方という設定で考えさせてもよい。 ・ 教材シリーズ名のもとになっている「ゲームチェンジャー」（ゲームの流れを変えられる人）という言葉を紹介し、「ゲームをチェンジするためには何が必要か？」「ゲームチェンジャーになるためにはどうすればよいか？」という問いかけをしてもよい。

※ 話し合いの仕方や授業のスタイルはクラスによって様々であると思います。上記「話し合いのポイント」や「授業プラン」をひとつの参考として、「いじめゲーム」を変える方法について子どもたちが多面的・多角的に考えられるよう、実態に応じて柔軟に授業を展開してください。